場所　３年５組教室

第３学年５組　国語科学習指導案

授業者　沓名　珠美

１　単元　「夏草『おくのほそ道』から」
～芭蕉の旅に思いを馳せて　紹介文を書こう～
探究課題「人生や自然に対して、芭蕉はどんなことを思い、感じたのだろう」

２　本時の指導

（１）段階　「活用」　８／９　時間

（２）目標

・人生や自然に対する作者のものの見方や感じ方について、仲間の意見を参考にすることで自分の考えを広げ、よりよい紹介文にすることができる。（「活用」に関わる目標）

（３）本時の指導展開

時間	学習活動	教師の手だてと支援
0	１　学習課題を確認する。	・学習のつながりを意識するために、仲間の紹介文についての自分の意見を確認する。
	学習課題　　仲間の意見を基によりよい紹介文にしよう	
3	２　前時に読んだ仲間の紹介文についての、「よいところ」や「より詳しくしたほうがよいところ」、「疑問に思ったところ」などを班で伝え合う。 ・「風雲の中に旅寝する」とあるから、ただ旅をするのではなく李白のように旅をしたかったのではないか。そこを詳しくした方がいいと思う。（松島） ・「五月雨」五月雨がまた使われているから、芭蕉は水に強い思いがあるという捉え方がよいと感じた。（最上川）	・班で伝える内容を明確にするために、前時で示した観点、「よいところ」「より詳しくした方がよいところ」「疑問に思ったところ」について全体で共有する。 ・紹介文の推敲をする際に考えの一助になるように、仲間の紹介文に対しての自分の考えを付箋に記入し渡す。 ・自分の考えをもつために、推敲する観点、「風景を想像できる」「芭蕉の考え方や俳句に込めた芭蕉の思いが伝わる」を全体に伝える。
23	３　仲間からの意見を基に、自分の紹介文を推敲する。 ・芭蕉は人生をかけた旅をしているから「李白のように」と付け足そう。 ・「芭蕉は自然に対して自分の人生を重ねているから川や雨がたびたび登場する」ことがよいと言ってもらえた。ここを強調しよう。	**◎よりよい紹介文にするために、仲間の意見を基に、自分の紹介文を推敲するよう促す。** ・よりよい紹介文にするために、仲間の意見を基に自分が新たに考えたことを、ワークシートに赤色で書くように伝える。
45	４　振り返りを書く。 「芭蕉はいろいろな場所を旅していたけど、憧れの李白のように旅をし、どの場所でも自分の人生と向き合って俳句を作っていたのではないかと考えた。」	・探究課題に迫ることができるように、「人生や自然に対しての芭蕉の思いや感じ方」について仲間の意見を基に考えたことについて振り返るように指示する。

３　評価

・人生や自然に対する作者のものの見方や感じ方について、仲間の意見を参考にすることで自分の考えを広げ、よりよい紹介文にすることができたか。
（ワークシートの記述、振り返りの内容から判断する。）